

| | |
|-------------|--|
| 学校教育目標 | やさしく はつらつとし たくましい 八幡っ子の育成 |
| 育成を目指す資質・能力 | 互いの考えを受けとめる 思いを適切に表現できる 粘り強く解決に取り組む 子どもの育成 |

| | 学力状況について | 学習状況について |
|---------|--|--|
| 児童生徒の課題 | <p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <p>全国学力・学習状況調査結果より、平均正答率は全国・大分県を上回った(国語77p全国比+9.3、算数72p全国比+8.6)。県学力定着状況調査は、基本事項の定着にやや課題が見られた。記述の説明に対して意欲的に取り組んでおり、無回答がほとんどなかった。理由付けの減点が見られたので、考えの書き方の精度を上げる必要がある。</p> | <p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <p>全国学力・学習状況調査結果より、学習に対して意欲的である。ICTの効果も理解して使用できている。課題として、他教科に比べ国語への興味関心がやや低い。・先生がよいところの認めてくれる73.3p(全国比+24.5)・自分と違う意見について考えるのは楽しい46.7p(全国比+16.4)</p> |
| | <p>これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)</p> <p>・書く力は、授業により確実に付いている。解答の過程で説明が不足する場面が散見される。説明的文章の指導において、段落の役割を徹底させるとともに、教員が三角ロジックを意識し、意見を述べる際に根拠と合わせて理由付けを書く指導を行う。ICTも様々な学習で有効活用できた。ドリル学習に慣れてきた。</p> | |
| 指導の状況 | <p>1 組織的な授業改善の取組状況</p> <p>・自分の考えを表現するために、ワークシート、話型、ICTなどを取り入れた書く活動を行った結果、考えを書くことに対して意欲的に取り組めるようになった。(R6 1学期末)授業中、自分の考えをまとめ、書いたり話したりできた児童94%</p> <p>・ペア、グループなどの話し合い活動を行い、意見を交換させる取組を継続。(R6 1学期末アンケート)タブレット端末のアプリを効果的に授業に取り入れることができた教職員89%</p> <p>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</p> <p>・漢字・計算の基礎の定着を確実にするために、スキルタイムの方法を見直し充実を図る。</p> <p>・家庭学習時間「学年×10分+10分」を決められた時間に行えるよう、生活時間調査にSNS、ゲーム、動画視聴の実態調査を実施。</p> <p>・高学年において、理科・外国語で教科担任制を継続導入し、習熟を図る。</p> | |

学力に関する達成指標

- 国語算数の評価テストの平均点 全学年1学期80点以上、学年末85点以上。
- ・自分の考えを相手に分かりやすく伝えるための手立てや学習形態を意識して、授業を実践する教職員 90%以上。(昨年度 意識している36.4%、まあしている54.5%)
- ・タブレット端末のアプリ(ロイノート、ドリル、まなびポケット等)を効果的に授業に取り入れた教職員 90%以上。
- ・保護者と連携した家庭学習指導を通して、毎日決められた時間の家庭学習に取り組むことができる児童 90%以上。

| | 【授業改善】 | 【家庭・地域との協働】 |
|-----------|--|---|
| 今後の具体的な取組 | <p>〈授業改善のテーマ・重点〉</p> <p>自ら課題を設定し、主体的に学ぶことができる子どもの育成 ～子どもたちが主体的に自分の考えを分かりやすく表現するための工夫を通して～</p> | |
| | <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動において、児童に課題を設定させる場をつくる。 ・課題に対する考えを書き、交流する時間を設定(単元ごと)する。 ・聞き手、話し手、書き手の話型使用の取組を毎時間行う。 ※全教科、全校で取り組む。 ・高学年において、考え・根拠・理由付けを入れ、教科の用語を使用した説明を意識して取り組ませる。 | <p>〈家庭・地域の取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習「学年×10分+10分」の確実な実施。 ・読み聞かせグループによる読書タイムの実施。 ・学年通信やHPなどによる呼びかけ。 |
| | <p>〈取組指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての教員が年1回以上、課題にそって説明したり発表したりする場面を設定した単元(題材)の指導計画を作成し互見授業を行う。 ・全ての教員が年3回以上他の教員の授業を参観し意見や感想を書いて提出する。 ・全ての教員が表現の手立てを考え、他の教員と共有する。特に、児童の交流場面では、交流する意図を明確にし、効果について意見交換する。 | <p>〈家庭・地域の取組指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の家庭学習の目標時間以上の実施を保護者に奨励し、年2回調査を行う。 ・段落、漢字を意識させた日記の取組み(低学年週1回以上、高学年毎日)を行う。 ・各学年、年間1回以上ゲストティーチャー・保護者と連携した授業を行う。 |
| | <p>〈検証指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童に対する評価アンケートにおいて、自分の考えをまとめ、表現することができた児童 90%以上。 ・教職員に対する評価アンケートにおいて、自分の考えを相手に分かりやすく伝えるための手立てや学習形態を意識して、授業を実践した教職員 90%以上。 | |
| | | <p>【授業改善以外の学力向上の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキルタイム…語彙力・計算力を育てるための学習(プリント等)に全校で取り組む期間を設ける。 ・読書指導…1人2冊借りるうち、1冊は読み物の本を借りるよう声かけをする。週末の金曜日に家庭読書を推奨し、図書で借りた本の持ち帰りを行う。 ・一人1台端末の持ち帰り…家庭で基礎問題の学習等に取り組ませる。 ・合唱指導…毎月の歌を決め、朝の会で楽しんで歌い、音楽集会で発表する。 ・ペア・グループでの話し合いや教え合いができる学級集団を育てる。 |